

2017 6/27

No.2045

毎月第2・第4火曜日発行

政経かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



箱根登山電車の線路沿いに植えられたアジサイのライトアップ（午後6時半～10時）が始まり、恒例の特別電車「夜のあじさい号」も運行開始した。ライトアップは7月9日まで。



contents

| | |
|----------------------------------|----|
| 視点・点描 | 3 |
| 早朝型働き方考え方 | |
| 政治 | 4 |
| 加計、共謀罪で国会異例の幕引き いかがわしさ露呈し支持急落 | |
| 国際 | 6 |
| EU離脱戦略はどう変わる? 総選挙“敗北”のメイ英政権 | |
| 社会 | 8 |
| 社会的インパクト評価に注目 事業価値を測る新手法 | |
| くらし2017 | 10 |
| 最近、家族と向き合ってますか | |
| 広告珍談 | 12 |
| 広告はたのしい② 天下一品! | |
| NNAアジア経済リポート | 13 |
| 神奈川景気データファイル | 14 |
| 神奈川景気データファイル | 15 |

事務局だより

◇7月定例講演会
2017年7月19日(水)
午後1時30分～3時
ロイヤルホールヨコハマ5階
「リビエラの間」
講師は日本銀行横浜支店長の
播本慶子さん
演題は「最近の金融経済情勢
について」

視点



早朝型働き方を考えよう

「働き方」が今、大きな関心事になっている。東京都庁の午後8時退庁や、佐川急便のドライバーへの週休3日制導入は、記憶に新しいところだ。国も「働き方改革」を打ち出している。仕事と生活の調和を意味する「ワーク・ライフ・バランス」という言葉もよく耳にするようになった。

たかという喜ばしい気持ちの一 方、私を含め多くの労働者が感じているのが「仕事量は減らないし、人員は削減されていくのに、働き

でも良く知られたプロ野球チーム「シアトル・マリナーズ」があり、試合がある日は運動部デスクが残っている。そして記者は球場に。「この人数で夜のニュースに対応できるのか」と心配になつたが、方を変えることなんて、できるのだろうか」という疑問だろう。日本企業が「長時間労働」から抜け出すのは、なかなか難しい。

そう、米国は「早朝型」。仕事

私事で恐縮だが、今から10年ほど前、米・ワシントン州シアトルで早出をする。午前5時半とか6時とか、冬場は暗いうちからオフィスで仕事を始める。ホームス

の新聞社でインターをする機会があり、半年ほど米国に住んだ。その経験から、一つの「働き方」を紹介したい。

まず驚いたのが、「長時間労働」しなくとも、社会や経済は成り立つのだ」ということ。新聞社でも午後5時過ぎると、報道部の夜勤記者とデスク、運動部のデスクを除き、人はほとんどいなくなる。

ちなみにデスクは記者の原稿を見る出稿責任者だ。シアトルは日本でも良くなれたプロ野球チームを書いたりして夜を過ごした。そして日本での積年の長時間労働の疲れから、どうにかこうにか回復できた。

帰国し、また日本社会に戻ったわけだが、「早く日本も、社会全体が早朝型になつてほしい」と常々、願つている。

(神奈川新聞社文化部長

秋山 理砂)

天下一品！

ボクは、シャケ缶が好きだ。

この広告を見て、好きになつたのではない。1926（大正15）年、の掲出だから、まだまだ生まれてない。だけど見覚えのある、A KEBONO 缶詰が並んでいる。どれもおいしい、おいしいと食べたと思う。

「天下一品」と大きく、天空に舞いあがるシャケ。遠くに冰山が。勇壮なイラスト、豪快な広告ではないか。

「滋味廉価」は「日魯のさけ缶詰」

「日魯の塩蔵鮭鱈」

「珍味高級」は「日魯の冷凍鮭鱈」

「日魯のカニ缶詰」

自信にあふれた広告主は日魯漁業。「魯」とは魯西亞、ロシアの口である。

日魯漁業は1914（大正3）



加工品、陸にあがつて飼料畜産品なども生産。90（平成2）年、ニチロと改称。商標の「あけぼの」は、創業からかわらない。

缶詰について。加工した肉やサ

設立された。32（昭和7）年からは、ロシアと合同で北洋漁業を独占した。いわば日魯は、仲良し仲間を宣言した社名。

太平洋戦争後も北洋漁業を復興。漁労だけでなく、サケ缶やマス缶を生産。冷凍魚を中心に水産

1810年、フランスのN・アペルが発案した。おなじころ、イギリスのP・デュランドがブリキ缶を使つて特許をえた。日本では

1871（明治4）年、松田雅典が長崎でフランス人からまなび、イワシのアブラ漬け缶詰を製造したのが最初。

缶詰にくらべて瓶詰は、衝撃や

温度の急変に弱い。ガラス製だから仕方ないけど、中身が見える。すらっとした、アスパラガスのうまそうなこと。ゴムの輪をはめたアンカー・キャップ、バンドでしめつけたハネツクス・キャップ、王冠をかぶせたケーシー瓶などがある。

太平洋戦争が終結したとき、ボクは国民学校（戦時中の小学校の呼称）の4年生。給食が始まつた。手伝いをする学童たちは、たくさん缶詰を開けた。駐留軍から支給されたモノだったのか、缶切りはそれぞれ自宅から持つてきた。いまも我が家で使つてている、すぐれものだ。

（美術工ッセイスト、茅ヶ崎市在住）

（図）「日魯のさけ缶詰」の全ページ広告。1926（大正15）年掲出